

今週取材した
医師・病院

三井記念病院
眼科
赤星隆幸 医師
住所／東京都千代田区
神田和泉町1
電話／03-3862-9111

このほかに
「プレチヨップ法」を
行っている病院

秋葉原
アイクリニック
住所／東京都台東区
台東1-7-1
サンイーグルビル3・4F
電話／03-5846-3500

杉浦眼科
住所／埼玉県春日部市
中央1-50-6
電話／048-738-2333

稲村眼科
クリニック
住所／神奈川県横浜市
中区伊勢佐木町5-125
伊勢佐木クイントパティオ2F
電話／045-263-1771

遠谷眼科
住所／兵庫県尼崎市
塚口町1-10-31
電話／06-6428-1515

正岡眼科
住所／愛媛県今治市
常盤町5-3-9
電話／0898-25-8000

その治療法は
本当に
効くのか

白内障

今回のテーマ

行つて、見て、聞いた

連載第六回

ニツポンの最先端医療

伊藤隼也

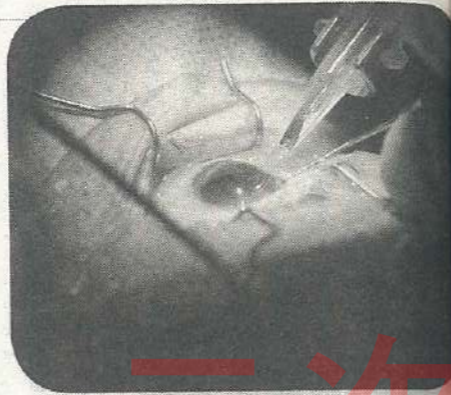
医療ジャーナリスト・写真家

現代人は日常生活において、情報のもとを映像として受け取っている。テレビやコンピュータといった映像機器が溢れる環境が視覚偏重を生み、それが五感の退化を招いているという説さえある。真偽はともかく、現代人が大切な「眼」を使わずに生きていくことは間違いではない。

眼の老化現象の代表的なものがいわゆる「老眼」だ。これは加齢により、眼球内のレンズである水晶体の弾性が失われることで生じる。その水晶体が濁って起きるのが、「白内障」だ。最近では高齢者だけでなく、アトピー性皮膚炎や糖尿病などの合併症として、若い人の発症も増えている。病気の進行には個人差があるが、最終的

ゆっくりと横に開いて水晶体の核を2分割し、その後、水晶体を90度回して4分割する。次に超音波チップを差し入れ、4分割された水晶体を砕いて乳化させ、吸い出す。この間、チップから液体が流れ、眼球への負担を軽減し形状を保持する。最後に「インジェクター」という器具を使って、切開した2mmの傷口から折りたたまれたアクリル製の眼内レンズを挿入して手術は終了。レンズは眼球内で自然に展開し、この時点から患者は目が見えるようになるという。

の变形や炎症などが防げるようになり、手術による眼球への影響が軽減されるといわれる。傷口の「手術後の乱視の度数は、傷口の大きさの3乗に比例するといわれています。従来の手術方法では手術することで患者を乱視にしてしまっていました。プレチヨップ法であれば、術後、乱視になることはまずありません」（赤星医師）



(左) わずか2mmの切開部から最上挿入プレチヨップを切り入れ、最終的に折りたたまれた眼内レンズをインジェクターを用いて注入する。(下)顕微鏡をのぞきながら手技をこなす赤星医師

な治療法は、手術で眼球内の水晶体を取り除き、代わりに人工の眼内レンズを入れることになる。今回はこの白内障手術を、眼出血ゼロで行う「プレチヨップ法」で、年間7000件の手術をする実力の持ち主、三井記念病院（東京・秋葉原）の眼科部長・赤星隆幸医師の手術現場取材した。手術室のドアを開けると左右に

「室ずつ部屋があり、手術はこの2部屋で交互に行われる。これから手術を受けるのは70代の女性・Aさんだ。メガネをかければ1.0まで視力が出るが、水晶体が濁ってきており、裸眼での視力が0.2〜0.3で、なおかつ光をまぶしく感じるという。昔は、Aさんのようなケースは「メガネをかければ見える」ということで手術の適応にはなりませんでした。しかし、今では手術の安全性も高くなり、低侵襲（切開部位が小さく、身体への負担が小さい手術法）で施術できるようになったので、手術可能になったのです」（赤星医師）

Aさんの場合、超音波で水晶体を砕く時間のトータルは1.9秒だった。水晶体の状態により個人差はあるが、大体これくらいの時間だという。

「このようにデータをすべて取り、何かもつと改良できないかと常々考えています。そのことが、これまで行ってきたことが間違いではなかったという検証にもなるんです」（赤星医師）

赤星医師は、93年にプレチヨップ手術をアメリカ眼内レンズ学会で発表して以来、従来の手術法より確実に低侵襲で優れているという確信から、手術法や器具の改良を続けてきた。

すでに、国内において約8万件の手術を行い、欧米など60カ国でも公開手術をしたという。最近では海外の病院でもこの手術法が取り入れられているようだ。しかし、なぜか国内でプレチヨップ手術ができる施設は限られている。現在、白内障手術は年間に全国

される。この麻酔は視神経の麻痺がなく、アレルギーなどのトラブルも少ないという。目の回りだけが丸く切り抜かれた布を、顔から胸元までかけられた。徹底した感染予防のために、まつ毛さえ特殊なビニールで丸めこまれている。眼科の手術で何より怖いのは感染症だそう。

麻酔が効いたら、手術開始。Aさんの真上に手術顕微鏡がセットされた。モニターには眼球がアツプで映し出され、水晶体が黄色く濁っている様子がよくわかる。

まず、ダイヤモンドメスで角膜に2mmほど切れ目を入れる。切開後、赤星医師が開発した「プレチヨップ」という、先端が交差状になっている特殊な器具を水晶体の中心に切り入れる（写真大）。

で100万件近く行われ、日帰り手術も常識になっているポピュラーな手術だ。

だが、その「術式」にこだわる患者はどれだけ存在するのだろうか。外科手術は、質が担保されれば、感染のリスクなどを考えると、手術時間は短いほうが良いに決まっている。これから「白内障手術」を受ける人は、手術法の違いや、それぞれのメリットとデメリット、その施設での超音波を使う平均的な時間を尋ねてみよう。

ちなみに、白内障手術には「この段階で手術」という明確な基準はないという。日常生活に不自由をきたしたときに手術の時機と言われ、早ければ早いほど水晶体が柔らかく、簡単に手術ができる。これから団塊の世代が高齢化し、患者が増加することは必至だ。医療システムとして、本当に低侵襲で質の高い手術を広く提供することが、白内障手術全体の課題だろう。